

英国のEU離脱協定案の議会採決延期

ポイント① 議会承認獲得が困難

12月10日、英国のメイ首相は、11日に予定されていた英国のEU（欧州連合）離脱協定案の議会下院での採決を見送ると表明しました。離脱案に対して与野党双方からの反対意見が強く、議会での否決が濃厚なためです。新たな採決の日時は未定です。

野党などからはEUとの経済・政治関係の維持を求める声強い一方、与党内ではEU離脱による英国の主権回復を主張する強硬離脱派の発言力が強いようです。メイ首相がまとめた離脱案は、両者にとって中途半端に映り、支持が集まっていません。特に、英国領北アイルランドとEU加盟国のアイルランドとの国境管理問題が解決されるまでは、事実上英国全土をEUとの関税同盟に残すとの暫定措置が、批判対象になっているようです。

ポイント② EU首脳会議で離脱案修正を探る

メイ首相は、13日から開催されるEU首脳会議で、他の加盟国首脳に離脱案修正を申し出るとみられます。しかし、EU側は大幅な修正には慎重です。英国への譲歩は、他国でも反EU勢力を勢いづかせるとの懸念があるようです。さらに、修正案がまとまっても、英国議会で可決されるかどうかはわかりません。

ポイント③ 合意なし離脱回避の模索が続く

しかし、英国が合意なしの離脱に追い込まれば、原則無関税だった英対EU貿易で関税や通関手続きのコストが発生するなどして、大きな混乱が生じる懸念があります。それは英国、EU双方にとって得策ではありません。EUとの修正案の交渉、来年3月29日の離脱時期の先延ばし、英国での再国民投票など、合意なし離脱回避のオプションを模索する動きが続くでしょう。

市場では、通貨ポンドの下落圧力が高まっており、イングランド銀行（中央銀行）の対応が注目されます。

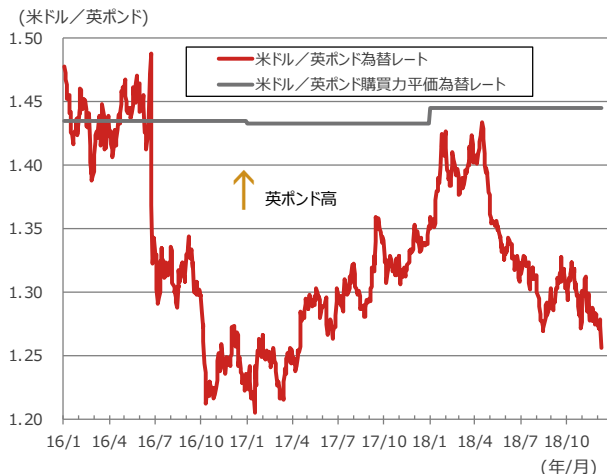
図1：今後の英国のEU離脱スケジュール

2018年	12月13、14日	EU首脳会議。英国が離脱案修正を申し出？修正案協議？
	12月21日	英下院クリスマス休暇入り。年内の離脱案採決は困難？
2019年	1月7日	英下院再開
	1月14日から	欧州議会本会議開催（1月14～17日、30～31日、2月11～14日）2月頃に離脱案審議？
	3月29日	英国、EU離脱。「合意あり」なら移行期間へ。「合意なし」の場合には移行期間なし。離脱案がまとまらなければ離脱延期の可能性？
2020年	12月末	「合意あり」離脱の場合の移行期間終了

（出所）各種報道より野村アセットマネジメント作成

図2：英ポンド対米ドル為替レート

期間：2016年1月1日～2018年12月10日、日次



（注）購買力平価為替レートはIMF（国際通貨基金）による年次推計値。

（出所）IMFデータ、Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

12月13日 EU首脳会議（14日まで）
12月20日 英国金融政策発表
12月21日 英国下院クリスマス休暇入り